

2024 総選挙および兵庫県知事選へ向けての連帯兵庫みなせんアピール

9月の与野党それぞれの代表選挙を経て発足した石破政権が9日衆院を解散し戦後最短の内閣となり、15日から総選挙が始まります。国民の生活よりも軍事力増強や“ばらまき経済政策”等を優先してきた安倍、菅、岸田政権を踏襲する中で、自公政権は末期的症状を募らせる中での総選挙です。自公政権に終止符を打ち、国民の期待に応える政権交代を果たすべき千載一遇のチャンスだが、小選挙区制の中で野党が結束し自公候補に打ち勝つ「市民と野党の共闘」には程遠い“野党競合”のまま選挙本番に突入しようとしています。

連帯兵庫みなせんは2015年秋以降展開されてきた「市民と野党の共闘」を兵庫で実現するべく取り組んできましたが、現状ではほぼすべての選挙区で“野党競合”の構図になり、政党も「野党共闘」を志向しない中では残念ながら、前回選挙までのような「候補者調整」を図る余地はありません。市民は12の選挙区と比例区で野党議席の最大化を図るとともに、公正な政治を歪めてきた“裏金議員”を当選させないように一人ひとりが行動するように呼びかけます。

“政党支配”脱して、県政史上画期的な知事選へ

総選挙と並行して、兵庫県民にとってはもう一つの重要な知事選が31日告示で始まります。

斎藤元彦知事のパワハラや私腹を肥やす体質に加えて、権力を行使した数々の疑惑をめぐってこの半年余りの兵庫県政は揺れ動き、停滞してきました。この過程では「知事の疑惑」を内部告発した元県民局長が自死に追い込まれるなど、複数の幹部職員を死に追い込む事件も明らかになりました。県議会は知事の疑惑を追及する百条委員会を経て9月19日全員一致で知事の不信任案を可決し、失職に追い込みました。

斎藤知事については、3年前の知事選で維新とつながる菅政権の後押しで維新と分裂した自民党県連に担がれた際に、連帯兵庫みなせんは「反維新勢力の結集で斎藤県政を阻止」するよう呼びかけましたが、反斎藤の結集はならず、県政を握った斎藤知事は維新の“本丸”である大阪の顔色を伺う県政を続けてきました。

今回の知事選に際して、斎藤氏は自ら犯してきた数々の疑惑や全会一致による不信任決議への反省の色もなく、自らを正当化して再選出馬を表明しています。これに対して知事選には斎藤氏のほかに6名が立候補を表明しており、過去最多の“乱戦”になっています。

私たちは、今回の知事選は斎藤再選を許してはならないと同時に、もう一つの重要な意味を持つ選挙だと考えます。

兵庫県の知事選は、これまで62年間にわたって自治省・総務省出身の知事が続いており、選挙に際しては自民党をはじめ多くの政党が推薦して、本来は国政から自立しておかねばならない地方自治を国政政党が牛耳る選挙を繰り返してきました。

今回の選挙では、現時点では共産党を除いて国政政党が推薦する候補がなく、県政史上画期的な知事選になろうとしています。さらに政党の支援を求めない、無所属市民派の政治家として県議や尼崎市長を延べ20年にわたって担ってきた前尼崎市長の稲村和美氏が市民団体の要請を受けて立候補を表明しています。稲村氏が県政を担うことになれば、兵庫県で初めての女性知事で、全国的にも希少な「無所属市民派」の知事が誕生することになります。

「市民主体の地方自治」再生へ、稲村和美・兵庫県政を実現しよう

自公政権が末期的症状を示している中で、この国の中央政治もようやく次の時代への光明を見出す希望が生まれています。そのためにも、この国が地方分権システムに移行してから25年目の節目の年に、中央政党の軛（くびき）から脱した本来の地方自治体「兵庫県」を実現する千載一遇のチャンスです。

私たちはここ数年、国政の絶望的な状況を前にして「市民主体の地方自治」再生から、この国の変革と民主主義の再構築を図ろうと呼びかけてきました。いま、そのチャンスが兵庫県知事選に巡ってきています。稲村県政の実現に総力を挙げて取り組みましょう。

2024年10月14日

連帯兵庫みなせん 平和と立憲主義、いのちと暮らしを守る市民選挙・連帯兵庫
連絡先：078-691-4593 (TEL) 078-691-5985 (FAX) Mail:minasenhhyogo2016@gmail.com